

# 部活動の地域移行を契機とした新たな仕組みの検討について

## 1 令和8年度以降の目指す姿

(理念)

子どもが地域社会とつながり、生涯活躍できる人づくり、まちづくりの推進

(目指す姿)

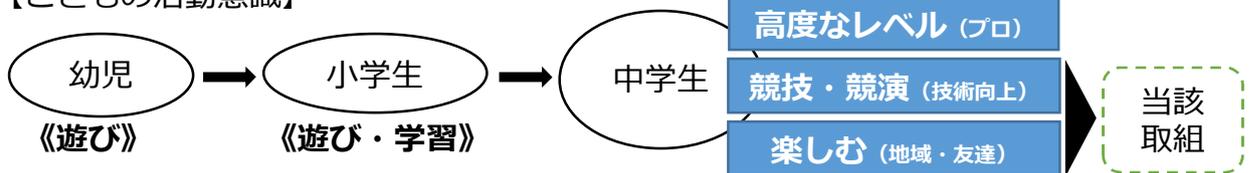
- ・子どもたちが、週末の過ごし方に新しい価値観を持ち、多様な活動に関わっている。
- ・世代を超えた様々な人々が、子どもの活動に関わり、自らも楽しんでいる。
- ・持続的、安定的な仕組みが構築されている。

これまで…学校の中・決まった種目（スポーツ・文化）・特定顧問・一つだけ・勝利至上

令和8年度以降は…学校の内外・多様な活動※（複数の選択）・地域ぐるみ・様々な目的

※部活動の種目以外の活動含む（例：棒の手、ボランティア、ボーイスカウト）

【こどもの活動意識】



## 2 検討の視点

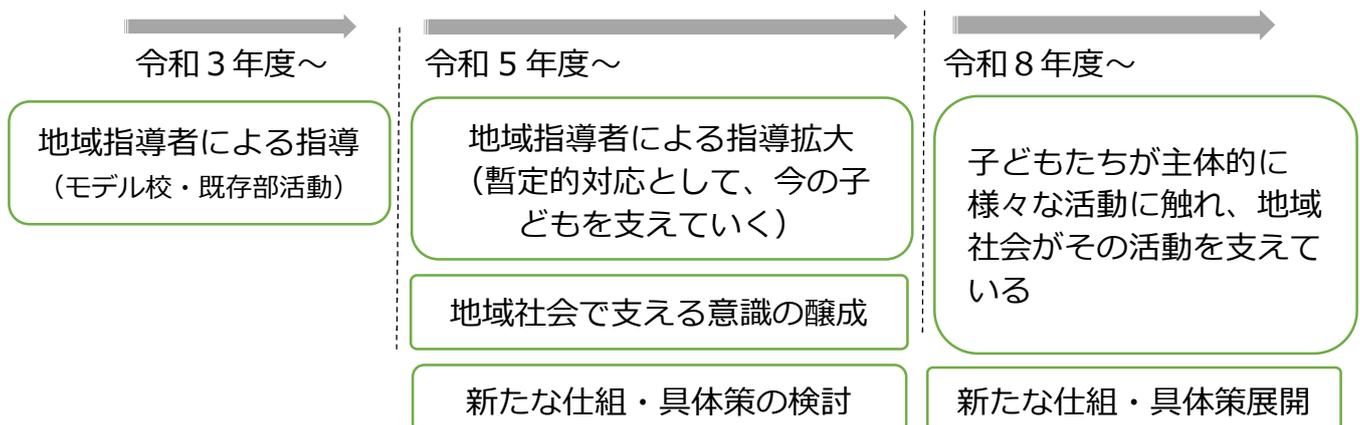
- ・豊田市の強みを生かす（充実した団体活動、施設）
- ・持続可能な活動に資する環境整備（財源、仕組み、場所）
- ・子どもたちが多様な活動に親しむ機会の確保（学校部活動からの脱却、新たな価値感、幼児期から通した子どもの活動環境の整備）

- ・市民の子どもへの関心・愛着の醸成
- ・シンギュラリティ※を見据えた子どもの多様な感性の醸成
- ・学校教育の充実、地域貢献意識の醸成
- ・新たな関わり、活躍機会が生まれることによる地域の活性化

目指す姿の  
実現

※シンギュラリティ：人工知能の進歩が、人間の知能を超えるとされている転換点。2045年にシンギュラリティに到達するとの予測もある。

【ロードマップ（年次目標）】





令和5年3月28日  
協議会資料 資料4

### 3 検討体制

庁内外関係者で構成する協議会を発足（年3～4回程度開催）

名称：『こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会』

役割：目指す姿に向けた環境づくりの検討（課題への対応、運営主体のあり方など）

※第1回（3月28日）は、理念、目指す姿、協議会の役割を共有

《検討の体系イメージ》



★第2回協議会（令和5年度～）以降、本格的に協議開始（委員の拡大も想定）

★地域（会議）との意見交換等は、モデル実施校（6中学校）の地域会議へ「諮問」

☞「こどもたちに対する地域の関わり方」の視点で意見を聴取

《協議会メンバー》

	分野	団体・役職	氏名
スポーツ	学識経験者	中京大学 スポーツ科学部 教授	中野 貴博
	関係団体	(公財)豊田市スポーツ協会 常務理事	粕谷 浩二
文化	学識経験者	静岡県立大学短期大学部 こども学科 (美術教育研究室) 准教授	藤田 雅也
	関係団体	(公財)豊田市文化振興財団 専務理事	藤本 聡
	地域団体	豊田文化団体協議会 会長	加藤 矢舟
学校	体育連盟	愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長	平吹 洋子
	校長会	豊田市小中学校長会 副会長	山中 浩之
行政	市長部局	生涯活躍部長	南 良明
	教育委員会	教育部長	三浦 法雄

※事務局：生涯活躍部スポーツ振興課・文化振興課、教育部学校教育課

※令和5年度以降、公募も含めた委員の順次拡大、ワーキングの設置等を予定（第1回協議会にて意見聴取）

【全体スケジュール】（平日部活動は、国や県の動向を注視し、適当な時期から議論）

4年度 モデル校実施（市：4校）、シンポジウム開催、方向性検討（庁内協議会の設置）

5年度 地域移行開始、活動紹介冊子作成（年度更新）、アンケート実施  
協議会の開催（方向性検討） ※以降、地域との意見交換実施

6年度 地域指導者による活動種目拡大、協議会開催（仕組・具体策の検討）

7年度 地域指導者による活動種目拡大、協議会開催（仕組・具体策の検討）

8年度 全市的な仕組の共有、めざす姿の実現

## こどもたちのスポーツ・文化活動を考えるシンポジウム

### 《開催結果報告》

日 時： 令和5年2月11日（土祝）13：30～16：00

場 所： 豊田市民文化会館 小ホール

登壇者： スポーツ庁田口課長補佐、中京大学中野教授、スポーツ推進審議会安藤委員、  
竜神中学校若月校長 ほか

内 容： 基調講演、事例発表、意見交換会

来場者： 約200名（学校関係、スポーツ関係、文化関係、自治体関係、保護者等）  
+オンライン視聴約170名

アンケート結果（回答91件）： （理解・概ね理解した人の割合）

○現状や課題への理解度 68.2%

○目指す姿の理解度 59.4%

○シンポジウム全体の満足度 56.1%

○主な自由意見

- ・さらに具体的な内容（市の方向性、課題の解決策等）を聞きたい
- ・具体的な課題への要望（指導者確保、保護者の負担軽減、市費を投じた仕組等）
- ・これまでにない新しい活動も取り入れてほしい
- ・部活動指導に携わりたい教員の活躍の機会も確保すべき
- ・様々な方が関わる以上、指導方針の整合を図ることが重要
- ・関心の高い大学生は多い。関わり方はいろいろあると思う
- ・あらためて、子どもの意見を聞くことの必要性を感じた